

患者氏名(カナ) R 年 月 日(初診・再診) 患者番号 整理番号  
( )

名前: \_\_\_\_\_ インフルエンザ検査希望あり・なし

(保護者氏名): \_\_\_\_\_

性別(どちらかに○): 女性・男性 生年月日: \_\_\_\_\_ 年 月 日 \_\_\_\_\_ 歳

住所: \_\_\_\_\_

(保護者住所): \_\_\_\_\_

電話番号: \_\_\_\_\_

(保護者電話番号): \_\_\_\_\_

職業・勤務先・学校等: \_\_\_\_\_ (所在地 \_\_\_\_\_)

危険因子: なし・あり(61歳以上、喫煙、高血圧、活動性がん、慢性腎臓病、慢性閉塞性肺疾患、肥満(BMI>30)、心疾患(心不全、冠動脈疾患または心筋症)、糖尿病、脂質異常、ダウン症、脳神経疾患(てんかん、脳卒中、変性疾患、重度精神知的障害)、免疫抑制(経過不良のHIV感染、臓器移植後、先天性免疫不全)、重度肝疾患、他慢性疾患 \_\_\_\_\_)(身長 \_\_\_\_\_ 体重 \_\_\_\_\_ BMI \_\_\_\_\_)

薬などのアレルギー歴: \_\_\_\_\_ 妊娠 なし・あり

発症日時: \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 \_\_\_\_\_ 時ごろ 症状(以下に○か記載): 発熱(最高 \_\_\_\_\_ °C)

(最終 \_\_\_\_\_ °C)、息苦しさ、咳、くしゃみ、鼻汁、鼻づまり、咽頭痛、味覚障害、嗅覚障害、頭痛、倦怠感、筋肉痛、関節痛、他(\_\_\_\_\_)

感染経路・濃厚接触(以下に○か、記載): あり(日時・場所・内容) \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ ・不明

自身との接触者(以下に○か、記載): あり(同居者・職場・友人等) \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ ・なし

医師記入欄 検査時所見 実施検査PCR・抗原(定量・定性) SPO2 % PR 回/分 呼吸困難無・有(RR /分) 意識障害無・有(JCS \_\_\_\_\_) 他( \_\_\_\_\_ ) 処方無・有(どちらかに○院内処方・院外処方: フスタゾール6錠3x5日分・カロナール300mg 10回分・アレジオン10mg 2錠1x5日分・イナビル 1回分・パキロビビッドパック600・300・ラゲブリオ・ゾコーバ \_\_\_\_\_)

### 検査結果

(どちらかに○)SARSCOV2検査結果陽性・陰性

抗原定性検査結果 SARSCOV2 陽性・陰性/Flu A 陽性・陰性/Flu B 陽性・陰性

本状(表裏)を検査実施証明兼診療情報提供書といたします。ご高診をお願い申します。松山クリニック松山毅  
保険情報(保険証コピー等)

保険者番号

割負担

記号・番号

有効期限

公費負担者番号

公費受給者番号

★ **本書面は重要な診療情報を含みます。回復するまで大切に保管して下さい**

**検査結果の報告とその後：**

検査結果が出るまでは、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の可能性ありますので、自宅などで安静にし、手洗い、人と距離を保つ、マスク着用を遵守してお過ごしください。同居者がおられる場合、生活空間、時間を分け、換気に心がけて過ごしてください。お家の中で全員がマスクを着用されるのも良いでしょう。検査結果は抗原定性検査の場合15分程度で結果が出ます。PCR検査は翌日に当院から結果を連絡申し上げます。また陰性であっても、COVID-19は完全否定はできません。体調が完全に回復されるまでは、自宅療養を続け、場合により再検査することを勧めます。最低5日間、できれば7-10日間の外出を控えてください。

**検査結果が出る前に症状が悪化した場合：**

息苦しい、意識がもうろうとする、胸の痛みが続いている、等の状態になった場合には、COVID-19が重症化している可能性があります。その際には、かかりつけ医や当院にご相談か、救急対応（救急車、近隣の病院を受診）して下さい。また、その際本書面を持参され、担当医にお見せください。

**陽性の場合：**

自宅療養の場合、必要に応じて診療（電話・訪問）は当院で可能です。陽性者の方のお問い合わせは、**当院03-3778-3815、03-3778-3816、050-5532-5431** まで。

**COVID-19の抗ウイルス治療について：**

現在この疾患に特化した経口薬が3種類あり、発病後3~5日以内投与開始なら重症化阻止や病気の期間を1日短縮することが、期待されます。特に重症化危険因子を一つ以上持つ方は、これらの治療をお勧めします。経口薬は当院と対応薬局で連携し、処方、調剤します。場合により薬局からご自宅へ配送します。

これらの経口薬は、おおむね重篤な副作用は、今のところあまり認められていないようです。しかし、新しい薬ですので、今後よりたくさんの方が投与を受けた場合には新たな問題点が認められることもあり得ます。

3種類の抗ウイルス薬のうちラゲブリオは重症化阻止率30%程度で、他の薬との相性の問題はほとんどありません。

パキロビッドは、重症化阻止率90%程度ですが、他の薬との相性の問題があり、腎機能が低下している場合には減量が必要です。

この2剤は重症化阻止が主目的で、発病後5日以内で病状が軽いうちに使い始めるものです。悪化してから開始しても遅いことご理解ください。

もう一剤のゾコーバは、軽症の方でも使えますが、他の薬との相性の問題があります。また、他の2剤と異なり、発病後3日以内に内服開始すべきで、文書にて同意していただく必要がございます。

いずれの薬も高価ですが、現時点では薬剤費の自己負担額は公費により以下までに減額されています。1) 自己負担率1割の方：3,000円 2) 2割の方：6,000円 3) 3割の方：9,000円

以上